

# てのあと

第3号



ニューズレター てのあと vol.3  
発行日：2011年9月1日  
発行元：てのひら～人身売買に立ち向かう会  
発行責任者：百瀬 圭吾  
デザイン：村上 なほ

## 千里の道も一歩から ～初級クラス開講！

理事 森 亜梨沙

この秋、日本語読み書き教室は新しい転機を迎える。緊急一時避難所を退所し、日本で生活する外国籍女性を対象に2007年10月に始まったこの教室は、今年で5年目に突入する。

授業記録を読み返すと、参加当初、緊張した面持ちで言葉数少なかった女性が次第に笑顔が増え、大きな声で発声をし積極的に質問を繰り返すようになったという記述がめだつ。私は、とある女性の言葉を思い出した。「私は、日本語の先生から正しい日本語を習っている。だから自信を持ってしゃべれるようになった」と、誰よりも朗らかな笑顔をたたえ誰にでも気軽に話しかけていたMさんのその言葉は衝撃だった。

そうして、ときおり女性たちから「職場の上司に日本語の上達ぶりが評価された」「子どもの学校の保護者会に参加し発言するようになった」「子ども向けの歌番組で流れている歌詞が読めて子どもと一緒に歌った」「日本語能力検定を受けてより待遇のよい職場につきたい」などといった喜びや決意の声を耳にするようになった。

その一方、ほぼ読み書きが出来ないことを前提にした入門の講座では、参加者のニーズにこたえられなくなった。入門を終えた参加者が、就職や生活する上でより実践的な日本語を学びたいという声が多く挙がっているのだ。

子育てや仕事で日々の生活に追われてしまう中でも、こつこつと努力をしてきた女性たちの要望にこたえるべく、この9月、念願叶って初級者クラスを開講する。入門と初級の二クラス開講するにあたり、子どもサポーターと日本語教師に新しい仲間も迎え、会場も新たな場所を借りることとなった。教室と子どもの遊び場、教師や子どもサポーター、資金などの確保、なによりおおっぴらに参加者を募集できないこの教室の特殊性ゆえに参加者の確保は引き続きの課題になると思うが、新たな序章の幕開けに大いに期待したい。

## 米国務省発行「人身売買報告書2011」を読んで

理事 杉本文恵

米国務省による「人身売買報告書2011」が発行されました。

人身売買報告書とは、毎年米国が発行するもので、人身売買に対する各国の取り組みを4段階で評価したものです。日本は7年連続でTIER2、良い方から2番目であり、政府の果たすべき役割が不十分な国と指摘されています。米国による一方的な評価だという批判はあるものの、人身売買に対する日本政府の取り組みを考える上で、参考とすべき指標の一つだと言えます。

今年度の報告書で注目すべき点は、日本人被害者が増えたということです。中には、日本国民の子どもとして外国で生まれ、のちに日本国籍を取得した子どもも含まれるなど、複雑なケースも挙げられています。また、外国人研修生制度を悪用した事例も挙げられています。外国人研修制度は、人身売買の定義に明らかにあてはまるケースがNGOなどから数多く報告されています。これまで隠れた存在であった日本人被害者にスポットを当て、外国人研修生制度を悪用したケースを人身売買と明確に定義した点は、今後の人身売買に関する政府の政策へ新たな視点をもたらすでしょう。ほかに、日本は依然として、東南アジアにおける児童買春ツアーの大きな需要源となっていることが指摘されています。

日本政府の取り組みは不十分であるばかりでなく、そのほとんどが効果をあげていません。また、加害者に対する罰則が大変ゆるく、被害者の保護・ケア体制も整っているとは言えません。外国人研修生制度の下で、多くの研修生に人身売買被害者であることを示す十分な証拠があったにもかかわらず、日本政府による被害者の認定が1人もなかったなど、政府の対応の遅さが目立ちます。今年に入管法が7月に改正され、外国人出入国管理に新たな動きがありました。来年度以降、人身売買問題にもどのような変化を見せるのか、本報告書の内容を考慮に入れながら、注意深く見ていきたいと思えます。





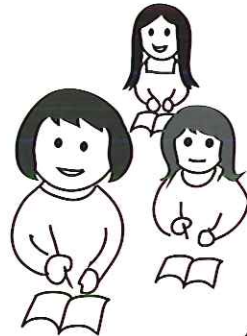
# 活動だより

## 日本語読み書き教室から

私が「日本語読み書き教室」の講師の一員として参加させていただいたのは約2年半前でした。様々な事情を抱えた学習者たちということで、正直、最初の頃は戸惑いや緊張がありましたが、段々と回を重ねていくうちに他の講師や学習者たちにも助けられ、楽しく授業ができるようになりました。(とはいえ、授業をするときはいつも緊張しますが…)

あるとき、ひとりの学習者が「日本語を学んでいると余計なことを考えなくてすむから、宿題をたくさん出してほしい」と言っていたことがとても印象に残っています。日本語の学習に集中することが、少しだけかもしれませんが彼女の気持ちの救いになっていることを実感しました。そうやって頑張って熱心に日本語を学んだ彼女たちが、就職し活躍しているという嬉しいニュースが聞かれると、私たちの励みにもなります。

また、今年の9月からは退所者向けの教室(入門クラスと初級クラス)もスタートすることになりました。こちらの初級クラスでは、日本での生活をより快適で安全に過ごしてもらえるように「日常生活に必要な日本語」「実用的な日本語」の習得を目標として、会話文を主体とした授業を計画しています。今までとは違ったスタイルの授業にする予定で、私たちの気持ちは期待と不安が入り混じっていますが、『楽しく日本語を学ぶ』ことをモットーに皆で知恵を絞り、悪戦苦闘しながら準備に追われています。(日本語教師 K.G.)

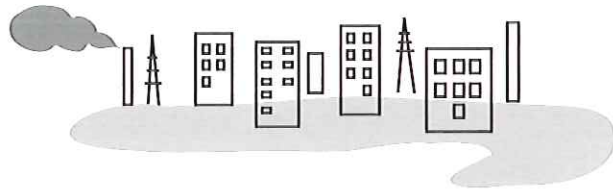


### コラム 南風通信 芦澤 俊

先日の6月9日、日本人作家である村上春樹氏が、第23回カタルーニャ国際賞を受賞し、スペインのバルセロナでスピーチを行いました。2008年にはエルサレム賞を受賞したスピーチでイスラエル軍のガザ侵攻を厳しく批判し、大きな話題を呼びました。村上氏は、今回の原発事故の原因は何かと問い、その原因は「効率」にあると指摘します。今回は「効率」について考えてみたいと思います。

現代の社会は効率を何よりも重視します。企業は利益とコストを計算し、コストを最小限に抑え、最大限の利益を確保しようとします。こうして社会のほとんどの物事が「損か得か」という論理で回転することになります。この効率的な社会において、私達の社会的な倫理が破壊されたことは、被災者よりも組織の利益を優先する東電の態度を見れば明らかです。

今回の震災は、人々の生活を破壊しただけではなく、私達が住む効率的な社会をも攻撃し、破壊しました。その1つが原発です。この震災をきっかけにして、現在の社会の在り方を根本から見直し、効率によって破壊された倫理を再び構築しなくてはならないのではないか。村上春樹氏のスピーチを読み、私はこのように考えました。



### 事務局 通信 2011.秋

#### 助成金・委託費など決定報告

- 部落解放・人権研究所「安田識字基金」より35万円 → 日本語読み書き教室プロジェクトへ
- ザ・ボディショップ・ニッポン基金より30万円 → 日本語読み書き教室プロジェクトへ
- オラクル有志の会ボランティア基金より50万円 → 子どもサポーター提供プロジェクトへ
- 東京ウィメンズプラザ DV 防止等民間活動助成事業民間活動等助成より25万円 → 社会に広く知らせる事業へ
- 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業より委託費として97万円

おかげさまで、以上2011年度上半期に合計237万円の活動資金を頂くことができました。しかし、年間に必要な予算300万円を確保するには会費・ご寄付が今後も欠かせません。よりよい事業をさらに継続していくために、重ねてのご支援をどうぞよろしくお願い致します!

#### 入会案内とご寄付のお願い

てのひらの設立趣旨に賛同し、活動を支えて下さる方を大募集しています。ご寄付も大歓迎です。

一般会員	5,000円	団体会員	10,000円
賛助会員	一口3,000円	団体会員	一口5,000円

郵便振替口座 00190-4-280388

口座名義 てのひら～人身売買に立ち向かう会

他行からは 当座 019 口座番号 当座 0280388

口座名義 てのひら～人身売買に立ち向かう会



#### お問い合わせ

〒143-8799 東京都大田区山王3-9-13 大森郵便局 留 TEL&FAX 050-1445-6947

E-mail ▶ info@tenohira-trafficking.org

HP ▶ http://www.think-trafficking-project.com/